



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

2023年3月期 通期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則 | 2023年5月11日

- ① 決算概要
- ② セグメント別業績
- ③ 2023年度通期業績予想
- ④ トピックス

売上高・営業利益 3期連続過去最高

- ・売上高 : 主力の計測事業が牽引し、3期連続で過去最高を更新
- ・営業利益 : 重点機種を中心に計測事業が貢献し、3期連続で過去最高を更新

計測・医用・産業 過去最高売上高更新

- ・計測 : ヘルスケアとグリーン分野で、重点機種に加え、環境、試験機などが貢献
- ・医用 : 北米でのX線TVの好調などを背景に、X線装置3機種が貢献
- ・産業 : 後半は厳しい市況になったもののTMPが年間で過去最高を更新
- ・航空 : 航空旅客数の回復により民間航空機向け需要が回復

計測重点機種、TMP 過去最高の売上高

- ・重点機種 : ヘルスケア分野を中心に増加、特に海外で好調に推移（前年比+13%）
- ・TMP : 半導体と建材ガラス市場の好調を背景に、初の300億円超え（前年比+12%）

第4四半期(1-3月) 前期比 大幅増収・増益

- ・売上高 : 部品部材不足緩和、中国回復などにより、計測が前年比+20%増加、医用、産業、航空事業も好調で、全体で前年比+17%増
特に計測の重点機種は+25%成長
- ・営業利益 : 増収に伴い、四半期として初めて営業利益200億円を突破
計測事業の営業利益率が20%を突破

注：計測重点機種（LC：液体クロマトグラフ、MS：質量分析システム、GC：ガスクロマトグラフ）、TMP：ターボ分子ポンプ

損益計算書

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 海外事業の拡大などにより、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益 全て過去最高を更新（3期連続）
- 積極的な研究開発費や人的投資を進めた中で、海外増収が貢献し営業利益率14%台を維持
- 第4四半期(1-3月)の売上高、営業利益は、四半期ベースで過去最高を更新

売上高
前年同期比：+541億円/+13%
4,822億円

営業利益
前年同期比：+44億円/+7%
682億円

営業利益率
前年同期比：▲0.8pt
14.1%

当期純利益
前年同期比：+48億円/+10%
520億円

	単位：億円	通期			前年同期比	
		FY2020	FY2021	FY2022	増減額	増減率
業績	売上高	3,935	4,282	4,822	+541	+13%
	営業利益	497	638	682	+44	+7%
	営業利益率	12.6%	14.9%	14.1%	▲0.8pt	
	経常利益	484	656	709	+53	+8%
	親会社株主に帰属する当期純利益	361	473	520	+48	+10%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	106.11	112.43	135.51	+23.08	+21%
	ユーロ(円)	123.75	130.60	141.02	+10.42	+8%
	研究開発費	157	163	190	+27	
	設備投資額	145	164	225	+62	

減価償却費
175億円

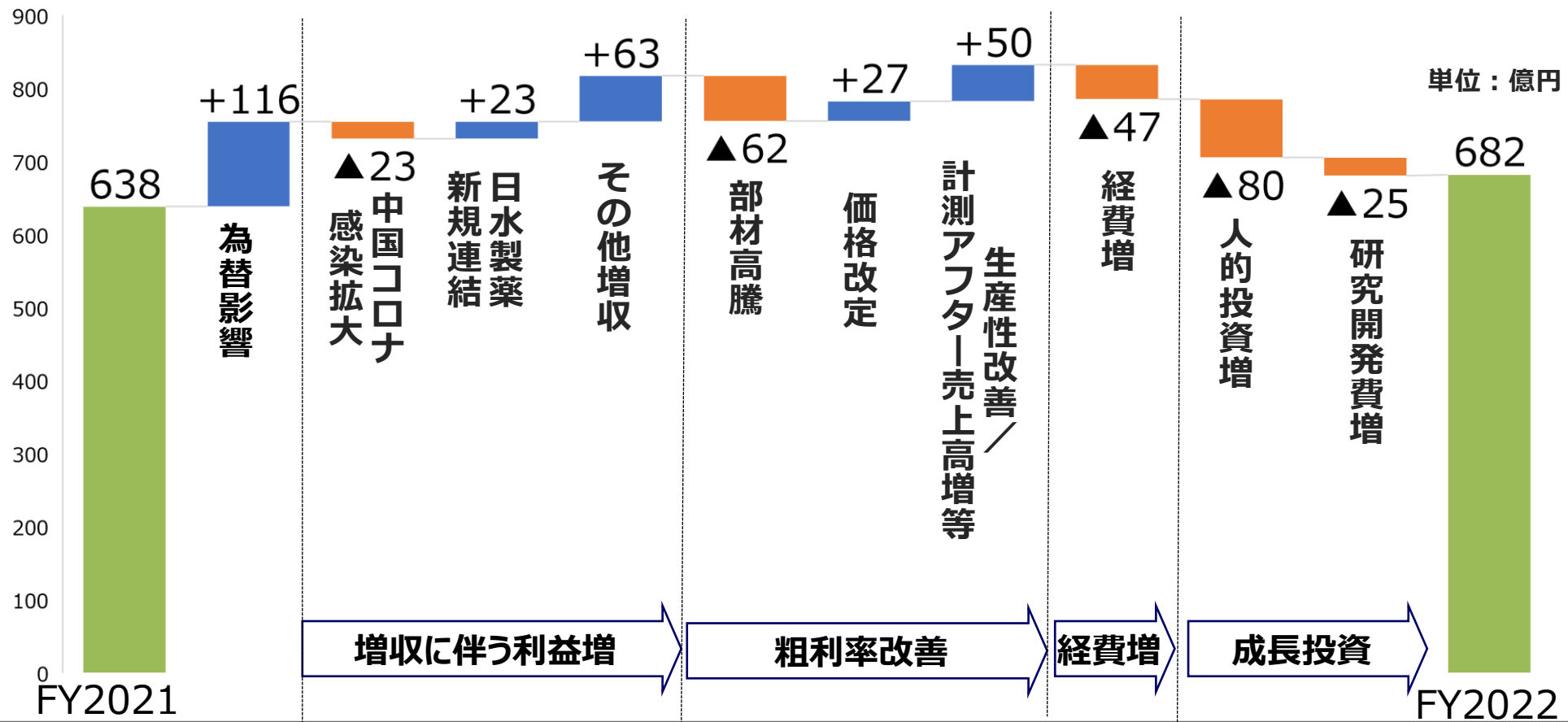
為替影響額
売上高：391億円
営業利益：116億円

棚卸未実現利益に対する
為替影響がマイナスに作用

営業利益増減要因

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 増収に伴う利益増 : 計測・医用・産業の増収に伴う粗利増 +63億円
- 粗利率改善 : 部材価格高騰を価格改定の推進、生産性改善などで補う +15億円
- 販管費増加 : 物流費、業務委託費などが増加 47億円 (利益押下げ)
- 成長投資増加 : 人的投資増、研究開発費増などの成長投資増 105億円 (利益押下げ)



セグメント別損益

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

売上高：主力4セグメントで増収 営業利益：部品部材高騰の影響を受けたが計測・航空で増益を達成

計測機器：増収増益

売上高：+372億円/+13%
営業利益：+47億円/+9%
営業利益率：18.3%

売上高:重点機種、環境機器、試験機がヘルスケア分野、グリーン分野で増加し過去最高を更新
営業利益:部品・部材価格高騰を増収効果で補い過去最高を更新

医用機器：増収減益

売上高：+90億円/+13%
営業利益：▲5億円/▲9%
営業利益率：7.3%

売上高:X線装置3機種ともに増加し、過去最高を更新
営業利益:部品・部材価格高騰の影響を増収効果で補えず減益

産業機器：増収減益

売上高：+62億円/+11%
営業利益：▲6億円/▲9%
営業利益率：8.6%

売上高:TMPの増加などにより、過去最高を更新
営業利益:部品・部材価格高騰の影響を増収効果で補えず減益

航空機器：増収増益

売上高：+17億円/+8%
営業利益：+13億円/12倍
営業利益率：5.8%

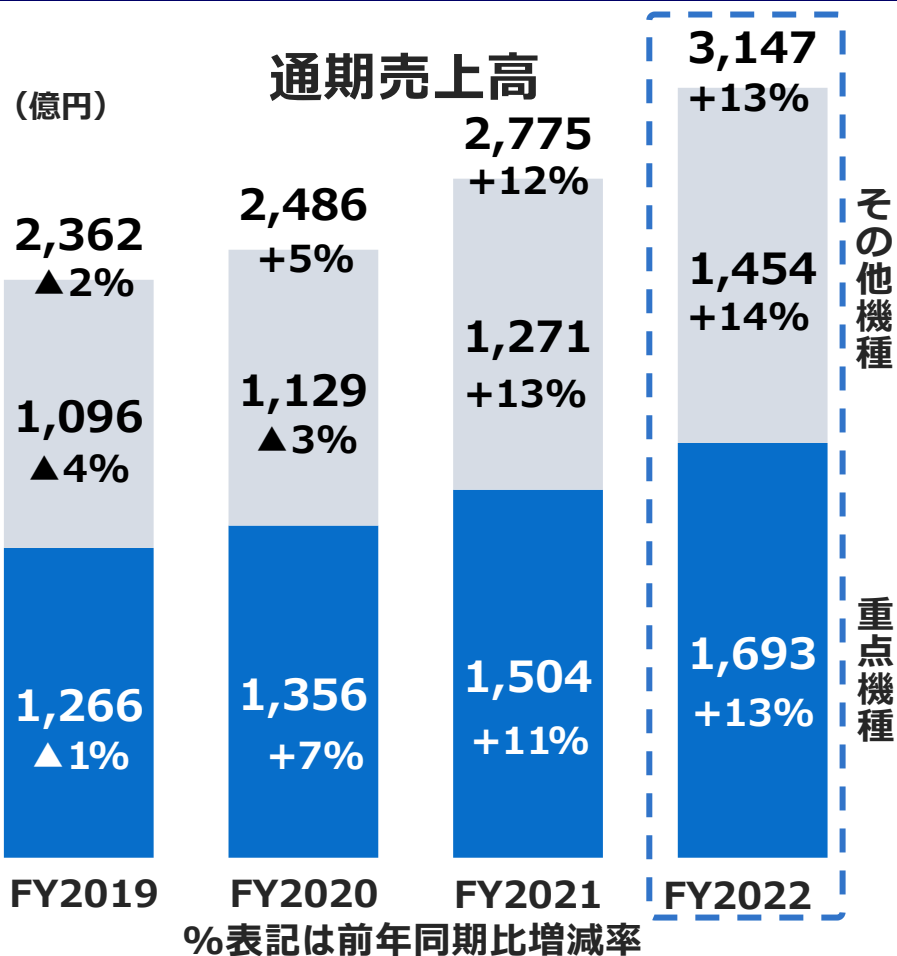
売上高:航空旅客需要増により、民間航空機向け増加
営業利益:増収効果に加え、収益性も改善し大幅増益

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2020	FY2021	FY2022	前期比		FY2020	FY2021	FY2022	前期比		FY2020	FY2021	FY2022	前期比
				増減額	増減率				増減額	増減率				増減
計測機器	2,486	2,775	3,147	+372	+13%	418	530	576	+47	+9%	16.8%	19.1%	18.3%	▲0.8pt
医用機器	669	669	759	+90	+13%	50	61	55	▲5	▲9%	7.5%	9.1%	7.3%	▲1.8pt
産業機器	451	567	630	+62	+11%	34	60	54	▲6	▲9%	7.4%	10.5%	8.6%	▲1.9pt
航空機器	286	223	240	+17	+8%	9	1	14	+13	+1071%	3.1%	0.5%	5.8%	+5.3pt
その他	44	47	47	▲0	▲0%	10	13	6	▲7	▲52%	16.2%	18.1%	8.4%	▲9.7pt
調整額	-	-	-	-	-	▲23	▲26	▲23	+2	-	-	-	-	-
合計	3,935	4,282	4,822	+541	+13%	497	638	682	+44	+7%	12.6%	14.9%	14.1%	▲0.8pt

- ① 決算概要
- ② セグメント別業績
- ③ 2023年度通期業績予想
- ④ トピックス

計測機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

- 重点機種：LC、MSはヘルスケア分野、GCはグリーン分野で増加し、13%増収
- その他機種：水質分析向け環境機器やグリーン・輸送機向けの試験機が増加し、14%増収
- アフターマーケット：日水製薬の連結と保守サービスの増加などによりAM売上高増加。比率37%（前期比+1pt）



その他機種

- X線光電子分光分析装置
- オンラインTOC計 TOC-4200
- 試験機 オートグラフAGX-V2

重点機種

- 液体クロマトグラフ Nexera XS Inert
- 液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-2050
- 液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-9050(Q-TOF型)
- 液体クロマトグラフ質量分析計 LCMS-8060NX
- ガスクロマトグラフ GC-2030

重点機種売上高

前年同期比 +189億円/ +13%

1,693億円

- LCは医薬・臨床・アカデミア向けに増加
- MSは臨床・受託分析向けに増加
- GCはグリーン向けに増加

その他機種売上高

前年同期比 +182億円/ +14%

1,454億円

- 環境計測機器は水質分析向けに増加
- 試験機はGX・輸送機向けに増加

アフターマーケット比率

前年同期比 +1pt (売上高+165億円)

37%

- 保守サービス増などにより1pt改善

計測機器/地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

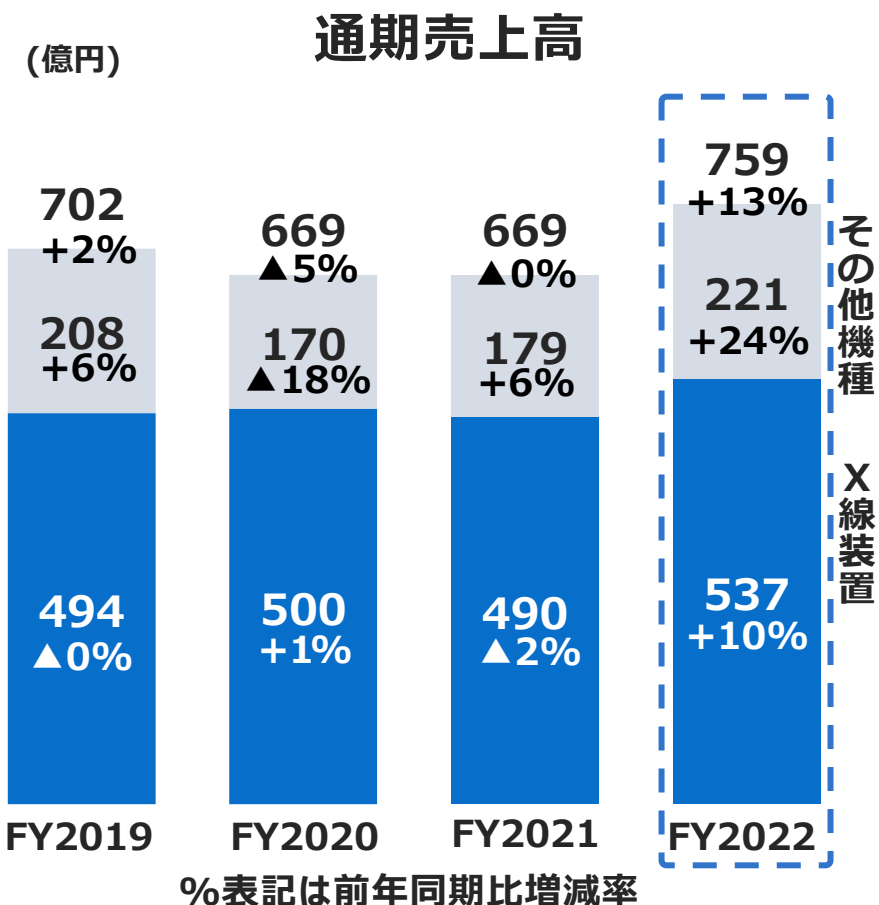
- ・ 日本：コロナ関連の売上高は減少したものの、GC、非破壊検査などがグリーン関連で増加し、7%増
- ・ 海外：重点機種が各地でヘルスケア分野、特に製薬市場向けに増加、その他機種も増え、全体で18%増
- ・ 4Q：特に海外が32%増加し、業績に大きく貢献。中国はコロナ禍収束により4Qに大幅回復

単位 億円		FY 2020	FY 2021	FY 2022	前年同期比		概況
					増減額	増減率	
日本	通期	1,042	1,136	1,211	+75	+7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーン関連でGC、非破壊検査などが増加 ・ 日水製薬連結子会社化が業績に貢献（下期から連結） ・ 新型コロナウイルス感染者の減によりPCR試薬、検査装置が減少
	4Q	386	396	428	+32	+8%	
海外	通期	1,444	1,639	1,935	+296	+18%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外売上高比率は56%と前年比3pt増
	4Q	374	390	517	+126	+32%	
北米	通期	260	295	333	+38	+13%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超臨界流体クロマトグラフが製薬市場開拓に貢献 ・ 水質汚染の問題（PFAS）規制強化により、MSや環境計測機器が増加 ・ 一部の大手顧客向けLCが減少したが、島津LCの台数は18%増加
	4Q	71	77	94	+17	+22%	
欧州	通期	256	286	327	+41	+14%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床向けの規制強化に迅速に対応し、LCとMSが増加 ・ ロシア向け事業が停止
	4Q	72	70	90	+20	+28%	
中国	通期	576	632	741	+109	+17%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下期からアカデミア向けが設備投資政府金融支援策により拡大 ・ 4Qは据付が進み、+49%の大幅増
	4Q	133	130	195	+64	+49%	
その他の アジア	通期	268	313	391	+79	+25%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬の自国生産強化により東南アジアやインドでLCが増加 ・ 韓国で食品安全向けにMSが増加
	4Q	72	82	96	+14	+18%	

医用機器/機種別売上高・アフターマーケット比率

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- ・X線装置 : 新製品が寄与し、X線TVシステム、血管撮影システムが増加したことで、10%増収
- ・その他機種 : 放射線治療用動体追跡システムや乳房・頭部専用TOF-PET装置が増加し、24%増収



その他機種

TOF-PET装置 BresTome

放射線治療用動体追跡システム SyncTrax

X線装置

X線TVシステム FLEXAVISION F4

近接型X線TVシステム FLUOROsPEED X1

血管撮影システム Trinias

一般撮影システム RADspeed Pro

X線装置売上高

前年同期比 +48億円/ +10%

537億円

- ・X線TVシステム:新製品が貢献。北米は近接型が好調
- ・血管撮影システム:新製品効果やインドで増加
- ・一般撮影システム:パワーアシスト機能などの差別化製品が貢献

その他機種売上高

前年同期比 +42億円/ +24%

221億円

- ・放射線治療用動体追跡システムや乳房・頭部専用TOF-PET装置が増加

アフターマーケット比率

前年同期比▲2pt (売上高+18億円)

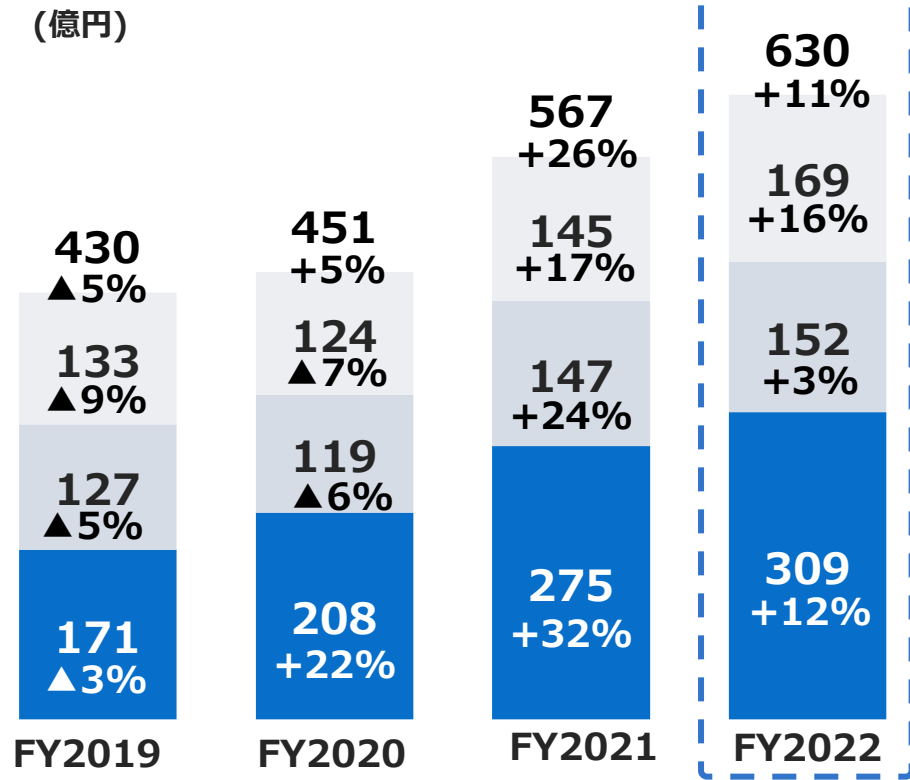
34%

産業機器/機種別売上高・TMPアフターマーケット比率

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- ・TMP：上期に半導体製造装置向けが増加。下期はローエミッション建材ガラス用コーティング装置向けが増加し、12%増
- ・油圧：国内顧客の生産調整による下押しを海外需要の伸びが補い3%増収

通期売上高



%表記は前年同期比増減率

その他機種

油圧

TMP



TMP
前年同期比+34億円/+12%
309億円

- ・半導体製造装置向け、環境対策として建材ガラス・薄膜太陽電池製造装置向け増加

油圧機器売上高
前年同期比 +5億円/ +3%
152億円

- ・一部顧客の生産調整の影響を受けたものの増収を確保

その他機種売上高
前年同期比 +23億円/ +16%
169億円

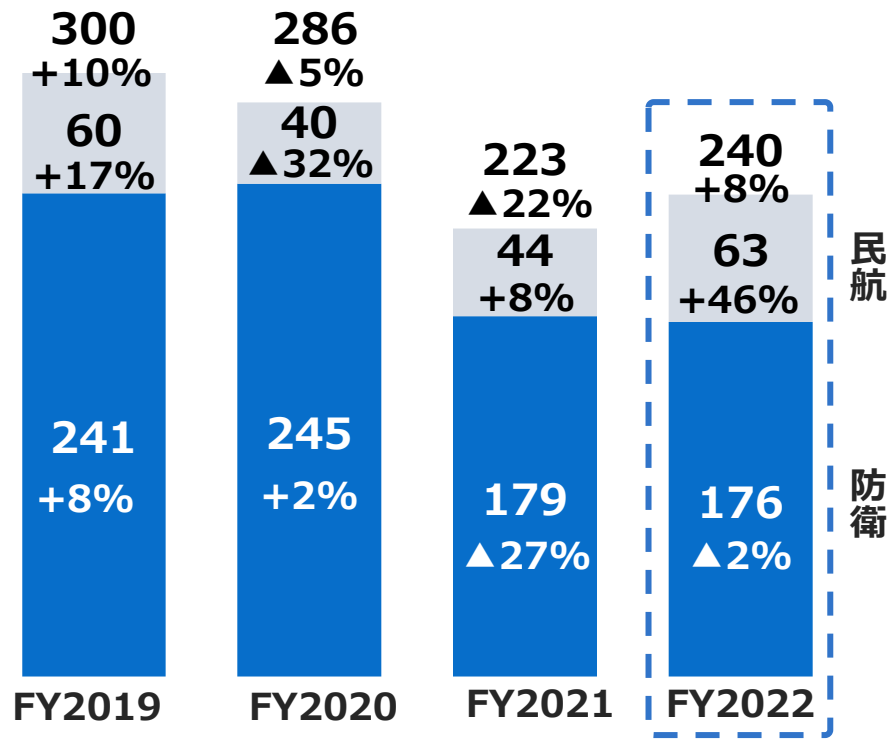
- ・中国で工業炉やガラスワインダが増加

TMPアフターマーケット比率
前年同期比▲1pt (売上高+1億円)
15%

- ・防衛分野は、修理案件の減少により前年比マイナス
- ・コロナ禍収束による社会経済活動の再開で航空旅客数が回復し、民間航空旅客機向け売上高が46%増加

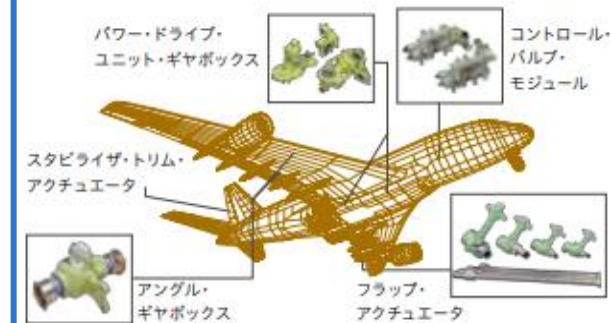
(億円)

通期売上高



%表記は前年同期比増減率

民間航空機



民間航空機分野売上高

前年同期比 +20億円/ +46%

63億円

- ・旅客需要が回復し、航空機増産に伴い、中小型機向けの搭載機器が大幅に増加

防衛



防衛分野売上高

前年同期比 ▲3億円/ ▲2%

176億円

- ・修理案件の減少により売上減
- ・不採算製品の整理を推進
- ・受注は好調に推移

- ① 決算概要
- ② セグメント別業績
- ③ **2023年度通期業績予想**
- ④ トピックス

売上高・営業利益
ともに
4期連続過去最高

- ・売上高 5,000億円(前期比+178億円/ +4%)
 - ・営業利益 710億円(前期比+ 28億円/ +4%)
- 豊富な受注残を売上に転嫁。価格改定を推進

主力4事業で増収増益
計測、産業は過去最高

- ・計測：ヘルスケア、グリーン分野向けを中心に拡販し前年比+3%（重点機種は同+7%）
中国コロナ感染拡大からの回復も取り込む
- ・医用：新製品のX線TV、血管撮影システムを拡販
- ・産機：TMPの半導体製造装置向けシェア拡大（TMP 前年比+6%）
環境対応建材ガラス用コーティング装置向け拡販、セラミックス向け工業炉拡販
- ・航空：防衛、民間ともに売上増。採算性改善を推進

将来に向けた投資

- ・成長投資の継続（人的投資・研究開発費）
- ・事業の更なるグローバル化に向けた生産設備の強靱化
- ・コーポレートベンチャーキャピタルファンド（CVC）を設立

10期連続増配

一株当たり配当金は56円と10期連続の増配を目指す

注：計測重点機種（LC：液体クロマトグラフ、MS：質量分析システム、GC：ガスクロマトグラフ）、TMP：ターボ分子ポンプ

2023年度通期業績予想

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

・売上高はヘルスケア、グリーン向けが牽引。営業利益は、成長投資を増収・価格改定等で補い増益を計画

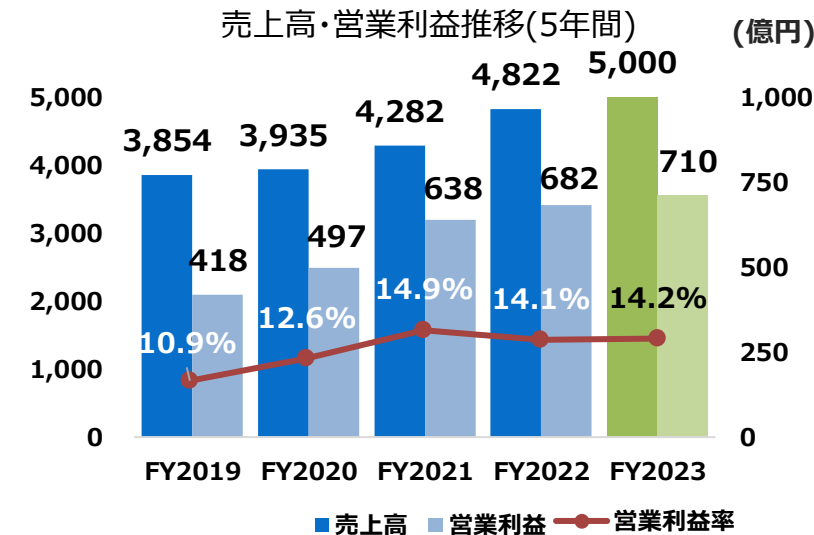
売上高
前期比：+178億円/ +4%
5,000億円

営業利益
前期比：+28億円/ +4%
710億円

営業利益率
前期比：+0.1pt
14.2%

当期純利益
前年同期比：+10億円/+2%
530億円

業績	単位：億円	通期			前期比	
		FY2021	FY2022	FY2023 予想	増減額	増減率
売上高		4,282	4,822	5,000	+178	+4%
営業利益		638	682	710	+28	+4%
	営業利益率	14.9%	14.1%	14.2%	+0.1pt	
経常利益		656	709	710	+1	+0%
親会社株主に帰属する当期純利益		473	520	530	+10	+2%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	112.43	135.51	130.00	▲5.51	▲4%
	ユーロ(円)	130.60	141.02	140.00	▲1.02	▲1%
	研究開発費	163	190	220	+30	
	設備投資額	164	225	250	+25	



減価償却費
180億円

為替感応度
米ドル
売上高：15億円
営業利益：5億円
ユーロ
3億円
1億円

2023年度通期セグメント別業績予想

・主要4セグメントで増収増益。主力の計測セグメントは4期連続で過去最高更新を計画

計測機器：増収増益

売上高 : +3%
営業利益 : +4%
営業利益率 : +0.2pt

- ・製薬・食品分野でLC,MSが、グリーン、インダストリー、マテリアルでGC、試験機などの重点機種増加
- ・リカーリング事業の強化

医用機器：増収増益

売上高 : +1%
営業利益 : +1%
営業利益率 : 横ばい

- ・X線TV、血管撮影システムの新製品拡販
- ・リカーリング事業の強化

産業機器：増収増益

売上高 : +3%
営業利益 : +14%
営業利益率 : +0.9pt

- ・TMPはコーティング市場向け増加やサービス拡大
- ・工業炉はセラミックス向け増加
- ・油圧は静音ポンプ拡販

航空機器：増収増益

売上高 : +17%
営業利益 : +22%
営業利益率 : +0.3pt

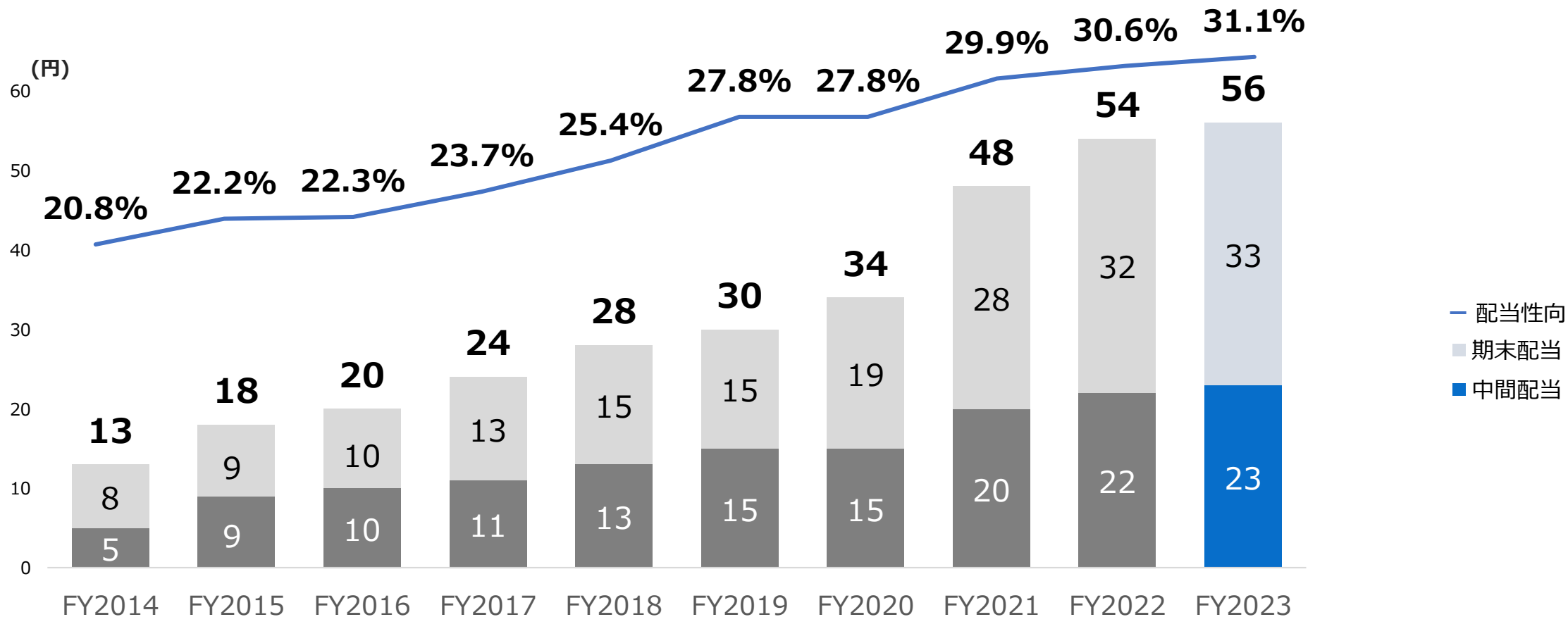
- ・民間航空は回復が継続
- ・防衛は、防衛予算増などにより増加

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2021	FY2022	FY2023 予想	前期比		FY2021	FY2022	FY2023 予想	前期比		FY2021	FY2022	FY2023 予想	前期比 増減
				増減額	増減率				増減額	増減率				
計測機器	2,775	3,147	3,250	+103	+3%	530	576	600	+24	+4%	19.1%	18.3%	18.5%	+0.2pt
医用機器	669	759	770	+11	+1%	61	55	56	+1	+1%	9.1%	7.3%	7.3%	▲0.0pt
産業機器	567	630	650	+20	+3%	60	54	62	+8	+14%	10.5%	8.6%	9.5%	+0.9pt
航空機器	223	240	280	+40	+17%	1	14	17	+3	+22%	0.5%	5.8%	6.1%	+0.3pt
その他	47	47	50	+3	+6%	13	6	5	▲1	▲16%	18.1%	8.4%	6.7%	▲1.7pt
調整額	-	-	-	-	-	▲26	▲23	▲30	-	-	-	-	-	-
合計	4,282	4,822	5,000	+178	+4%	638	682	710	+28	+4%	14.9%	14.1%	14.2%	+0.1pt

株主還元

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 還元方針：配当性向30%以上の維持と継続的な株主還元
- 配当金：1株当たり56円と10期連続増配(FY2023の配当性向は31.1%を予定)



*FY2022は定時株主総会で確定。FY2023は予定。

- ① 決算概要
- ② セグメント別業績
- ③ 2023年度通期業績予想
- ④ トピックス

北米業績拡大に向けた取り組み

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- 低分子医薬品中心から核酸などの中分子医薬にもビジネスを展開
- 営業力強化、アプリケーション開発強化に加え、開発機能の拡充やサービス体制強化によって、顧客との信頼関係を構築

【現製品の拡販】

- 創薬分野で評価される分取精製LCシステム
⇒ **製薬市場開拓**
- 共同開発の推進やアプリケーション開発を強化し、大手臨床検査会社のニーズを的確に把握し商品化
⇒ **臨床市場開拓**



セミ分取超臨界流体クロマトグラフ
「Nexera UC Prep」



高効率多流路LCMS
「Nexera QX」

【営業力強化】

- アカウントセールスを強化（製薬担当増員、臨床担当新規採用）
- 顧客対応スピードのアップ、営業効率向上を狙い、インサイドセールスを導入
- 技術サポートを充実させ、サービス対応強化・顧客満足度向上



【更なるアプリケーション・製品の開発機能を強化】

- 核酸医薬など新しいモダリティに向けたアプリケーション開発や製品開発の推進に向け、開発センターと西海岸・東海岸にアプリケーションセンターを設置。3拠点での開発体制を構築

西海岸開発センター

Phase 2

製薬&バイオ系企業やベンチャーとの協働で顧客ニーズにマッチした製品開発

東海岸開発センター

Phase 3

大手製薬上流部門やアカデミアと協働、最先端技術を搭載したMSの開発など



北米3拠点での
開発体制構築

北米R&Dセンター

Phase 1

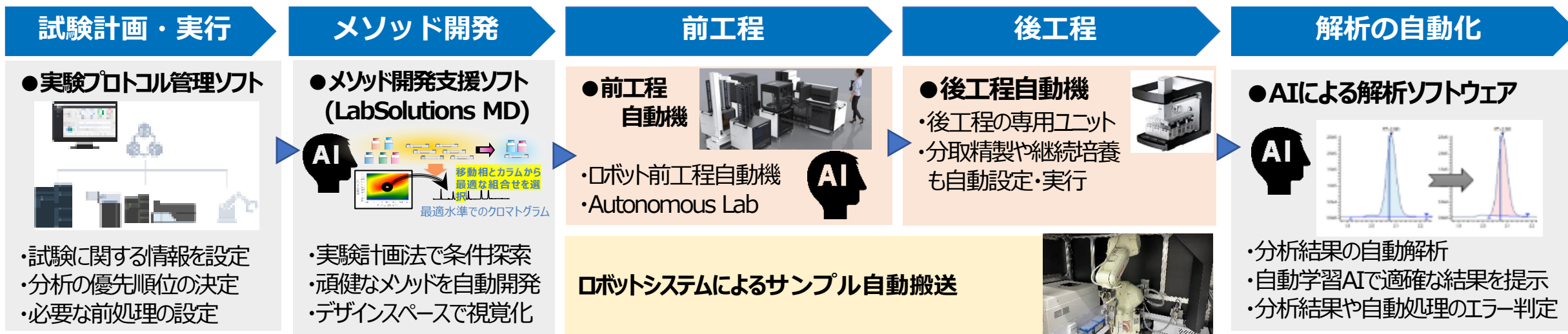
- LC、MSの先進的技術を有する研究者や重要顧客と共同研究・開発推進
- 核酸や遺伝子治療薬領域に向けた製品・アプリケーション開発
- 標準化・規制化への対応

製薬企業向けトータルソリューション

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

自動化やAI技術を活用し、パートナーとの協力を通じて、顧客ニーズに沿ったトータルソリューションを提供

トータルソリューション例：分析工程の全体最適の実現



メソッド開発支援ソフトウェアとの連携強化によりさらなる省力化を実現

2023年度
取組



LabSolutions MD



島津LC
分取システム

バイオ医薬向け前処理装置の上市

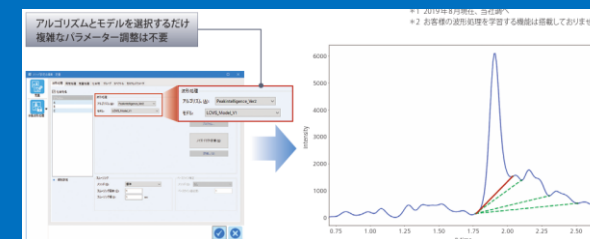


手作業



全自動

AI解析ソフトウェア“Peakintelligence”
を様々な分野や装置に展開

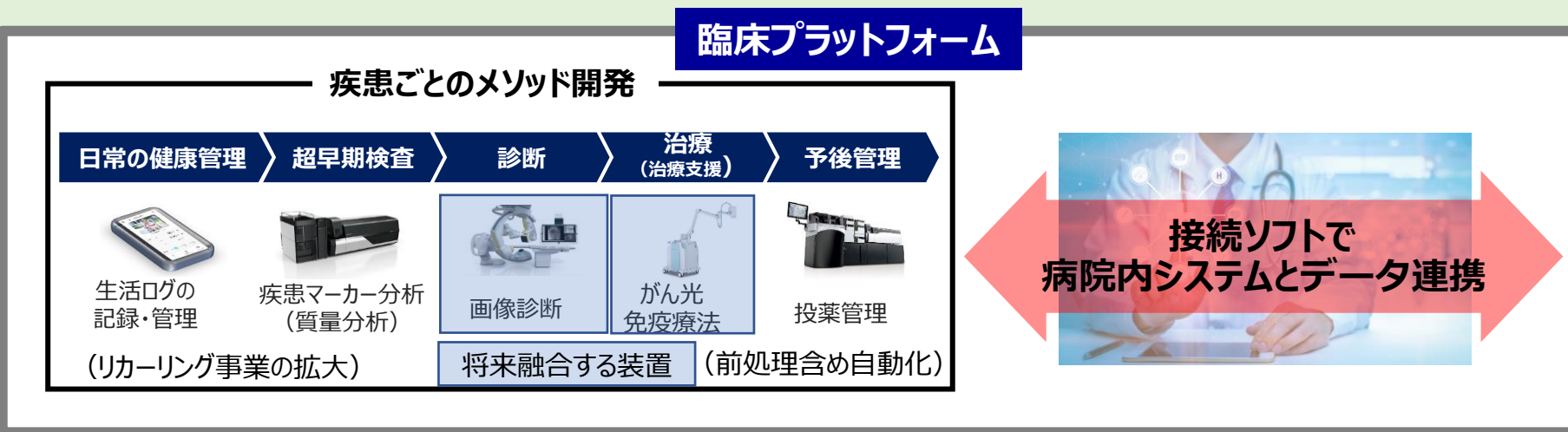


臨床事業のトータルソリューション

- 3つの領域に注力：臨床診断・微生物検査・細胞関連事業
- 臨床検査プラットフォームを構築：島津、島津ダイアグノスティクス（SDC:旧日水製薬）、Alsachimの連携
- グローバルでの臨床事業推進：2023年4月に島津製作所にダイアグノスティクス統括部を新設し活動開始

臨床診断	LCMSによる検査、免疫法検査、遺伝子検査の3つの領域で診断プラットフォームを構築。試薬キットの順次投入と病院内インフラへのネットワーク接続により、システムの拡販と試薬・消耗品などのリカーリング事業を拡大
微生物(臨床)	臨床微生物検査に参入、検査に必要な消耗品・装置群を順次揃え事業を強化(将来計画)
細胞関連	計測・解析技術とSDCの培地技術、STR/SDCの受託機能で再生医療・細胞治療市場へ参入。培地製造、再生医療等製品申請データ取得までをワンストップで対応。 *SDC：島津ダイアグノスティクス STR：島津テクニサーチ

【臨床診断の具体例】 検査に必要な臨床プラットフォームを提供することで、より効率的な病院経営を実現



- ・ 製造BCM（事業継続マネジメント）強靱化のため、グローバル製造体制強化、内製強化、物流体制強化
- ・ 2023年、生産高は前期比+8%を計画
- ・ 部材調達難の緩和を見込むが、受注残の解消は2023年度上期末と想定
- ・ 北米・中国では、現地市場に密着した事業基盤を構築を目指し、現地R&D部門と連携した製造体制を順次構築

■ 日本

- ・ 京都、滋賀、神奈川、島根、長野、茨城に自社工場を保有し生産拠点の分散化
- ・ 計測：三条工場の材料倉庫を外部倉庫に移転し、LC、MSを増産
- ・ 医用：島根工場の自動化・ロボット化推進
- ・ 産業：秦野工場でのTMP生産能力増強

■ 中国

- ・ 中国工場でのLCMS、GCMSの増産
- ・ 国産優遇対応のため中国工場拡張
約30億円(2024年6月 稼働予定)
工場の建屋面積を現在の2倍以上に拡張



物流棟「Shimadzu Logistics Center Kyoto」

■ 製造BCMの強靱化

- ・ 内製化推進、生産能力増強
 - ・ 国内・海外（北米、中国、マレーシア）
- ・ サプライチェーン強靱化
 - ・ グローバル調達機能の強化（特に北米）
 - ・ ビッグデータやAIを活用したサプライチェーン情報の収集強化
- ・ DXの推進
 - ・ 入出庫作業の自動化などの効率的な物流
 - ・ 製造自動化によるコストダウン、リードタイム短縮

CVCファンドの設立

- CVCファンドを設立（2023年4月） : 総額50億円 グローバル・ブレイン(株)と共同
- 技術開発型スタートアップに投資 : 領域は、ヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリー
- 野村SRIイノベーションセンターとも共同 : シリコンバレーに派遣中の駐在員とも協働

Shimadzu Future Innovation Fund (Shimadzu FIF)

革新的な技術や事業アイデアを有するスタートアップの支援・協業を通じて、新規事業創出と既存事業領域の成長を目指す

対象領域

ヘルスケア (ライフサイエンス、メドテック)

創薬モダリティの研究開発・製造革新への貢献

生き生きとした健康長寿社会への貢献

フードテック市場での技術革新への貢献

感染症対策への貢献

グリーン (GX)

地球温暖化対策への貢献

大気・土壌・水の保全への貢献

マテリアル

自動化とインフォマティクスによる革新素材開発・製造への貢献

インダストリー

デジタル社会の基礎となる半導体産業への貢献

物流インフラへの貢献

新規獲得

考え方
顧客中心
トータルソリューションの提供

技術
先端計測 革新バイオ AI
脳・五感 革新製造

収益モデル
リカーリング
(消耗品・ソフトウェア)

「コンプライアンスはすべてに優先する」を基本としたグループガバナンスの強化

企業価値最大化に向け、グローバルに統合リスク管理（リスクマネジメント・内部統制・コンプライアンス・モニタリング）を促進

ガバナンス強化

① リスクマネジメント推進

- ・事業リスクを識別し重要性を評価
- ・影響低減の対応計画立案と実行
- ・モニタリングを強化し、PDCA活動を展開

② 実効的な内部統制の実現

- ・グループマネジメント基本規定及び個社の補則ルールを整備
- ・3 防衛線(現場・管理部門・監査部門)のモニタリング体制を強化

③ モニタリングの強化

- ・グループ会社に、外部機関による財務監査・内部統制監査を適用
- ・業務監査方針を策定し、グローバル地域毎(欧・米・亜・中)に監査

風土改革の推進：
・240名のリスクマネジメント推進責任者の任命
・リスクマネジメント推進責任者を中心に、業務上のルール・手順のチーム学習を定例実施
・人事調査・ストレスチェック・エンゲージメント調査に基づき、風土を改革



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

損益計算書 (1-3月)

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

売上高

前年同期比：+205億円/+17%

1,428億円

営業利益

前年同期比：+41億円/+22%

224億円

営業利益率

前年同期比：+0.7pt

15.7%

当期純利益

前年同期比：+27億円/+20%

161億円

単位：億円	第4四半期(1月-3月)			前年同期比	
	FY2020	FY2021	FY2022	増減額	増減率
売上高	1,174	1,223	1,428	+205	+17%
営業利益	170	183	224	+41	+22%
営業利益率	14.5%	15.0%	15.7%	+0.7pt	
経常利益	159	189	226	+36	+19%
親会社株主に帰属する当期純利益	125	134	161	+27	+20%
平均為替レート：米ドル (円)	105.93	116.27	132.40	+16.13	+14%
ユーロ (円)	127.77	130.43	142.17	+11.74	+9%
研究開発費	49	47	54	+7	
設備投資額	39	63	47	▲15	

減価償却費

46億円

為替影響額

売上高：81億円
営業利益：33億円

セグメント別損益(1-3月)

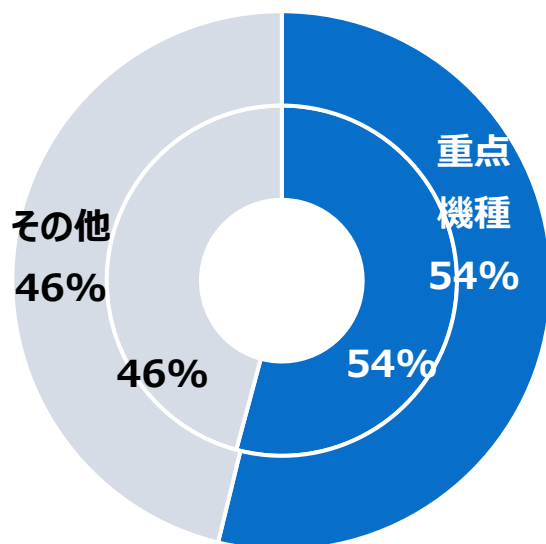
Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位: 億円	売上高					営業利益					営業利益率			
	FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比		FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比		FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比
				増減額	増減率				増減額	増減率				増減
計測機器	760	786	945	+158	+20%	139	151	195	+43	+29%	18.3%	19.2%	20.6%	+1.4pt
医用機器	205	200	225	+24	+12%	26	20	18	▲2	▲9%	12.5%	9.8%	7.9%	▲1.8pt
産業機器	128	153	167	+14	+9%	10	15	10	▲5	▲36%	7.9%	10.0%	5.9%	▲4.1pt
航空機器	66	72	77	+5	+7%	▲1	2	7	+5	+281%	▲1.3%	2.6%	9.2%	+6.6pt
その他	15	11	14	+3	+25%	4	5	1	▲4	▲72%	22.3%	27.0%	6.7%	▲20.3pt
調整額	-	-	-	-	-	▲8	▲9	▲6	+3	-	-	-	-	-
合計	1,174	1,223	1,428	+205	+17%	170	183	224	+41	+22%	14.5%	15.0%	15.7%	+0.7pt

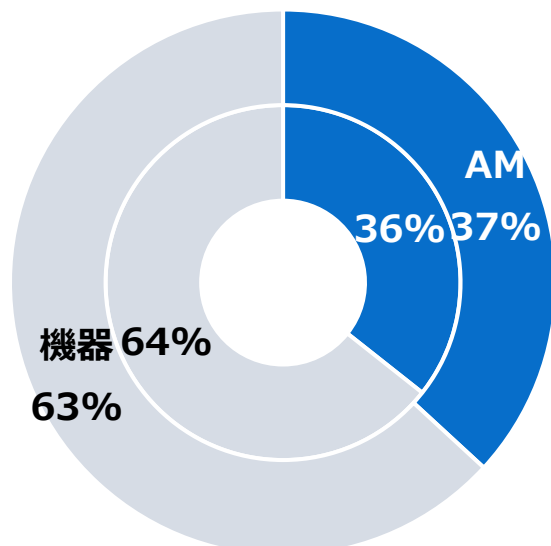
計測機器/各種売上高構成比率（通期）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

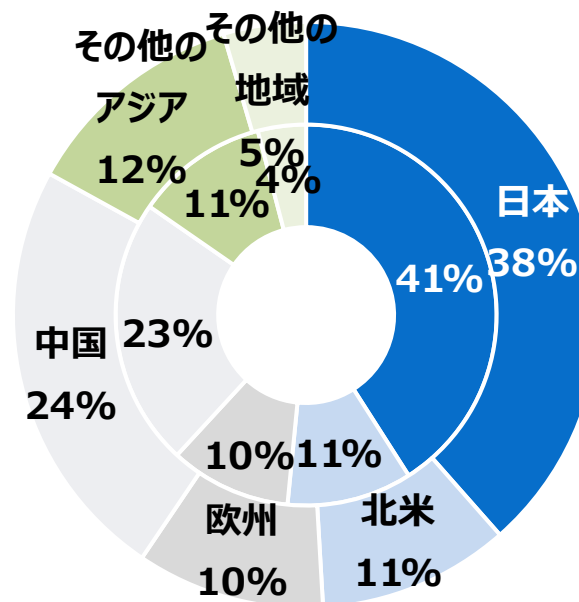
機種別



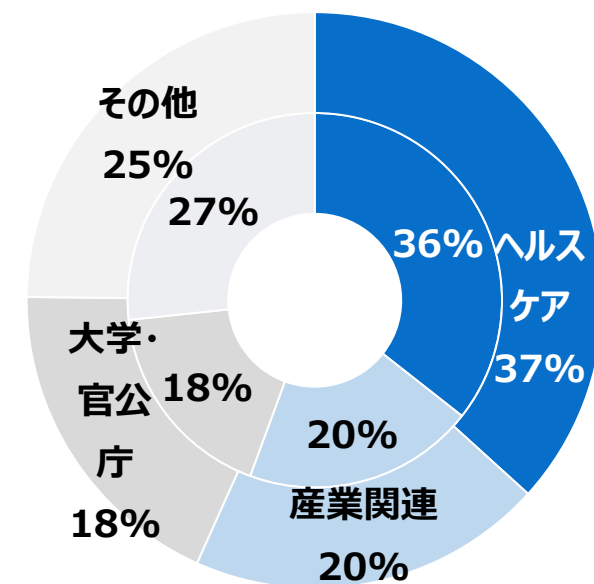
アフターマーケット（AM）比率



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

計測機器/重点機種売上高前年同期比

- ・重点機種：4Qになり生産遅延の緩和、据付進捗により大幅増収
- ・その他機種：中国で政府支援により教育向けが増加

為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	▲4%	+5%	+6%	+21%	+7%	+24%	+10%	+10%	+3%	+11%	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%
全体	▲4%	▲3%	+6%	+19%	+5%	+29%	+12%	+9%	+4%	+12%	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%

為替影響を除く	FY2020*					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	▲5%	+2%	+11%	+22%	+8%	+20%	+7%	+4%	▲3%	+6%	▲9%	▲2%	▲5%	+14%	▲0%
全体	▲7%	▲4%	+10%	+19%	+5%	+25%	+9%	+4%	▲0%	+8%	▲8%	+3%	+3%	+13%	+3%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

- ・日本：部品部材不足緩和に伴い、重点機種を中心に据付が進む
- ・海外：中国は、4Qになり正常化し大幅増収。北米、欧州もヘルスケア向けにLC,MSが増加

為替影響を含む	FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+1%	▲13%	+11%	+14%	+3%
北米	▲7%	+11%	▲10%	+3%	▲1%
欧州	▲9%	▲3%	+8%	+18%	+4%
中国	+10%	+15%	+11%	+59%	+20%
その他のアジア	▲24%	▲1%	+6%	+21%	▲0%
インド	▲30%	+16%	+5%	+19%	+3%

FY2021				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+26%	+12%	+4%	+3%	+9%
+35%	+12%	+2%	+9%	+13%
+28%	+17%	+9%	▲2%	+11%
+24%	+9%	+9%	▲2%	+10%
+27%	+10%	+18%	+14%	+17%
+4%	+3%	+4%	+12%	+6%

FY2022				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%
▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%
+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%
▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%
+37%	+25%	+24%	+18%	+25%
+50%	+22%	+26%	+8%	+23%

為替影響を除く	FY2020*				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+1%	▲13%	+11%	+14%	+3%
北米	▲4%	+12%	▲7%	+5%	+1%
欧州	▲5%	▲6%	+5%	+12%	+1%
中国	+12%	+17%	+15%	+64%	+23%
その他のアジア	▲21%	▲1%	+8%	+22%	+2%
インド	▲28%	+17%	+9%	+23%	+6%

FY2021				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+26%	+12%	+4%	+3%	+9%
+31%	+7%	▲7%	+0%	+7%
+15%	+11%	+4%	▲4%	+5%
+22%	+5%	▲0%	▲12%	+4%
+22%	+6%	+10%	+6%	+10%
+2%	▲0%	▲3%	+3%	+0%

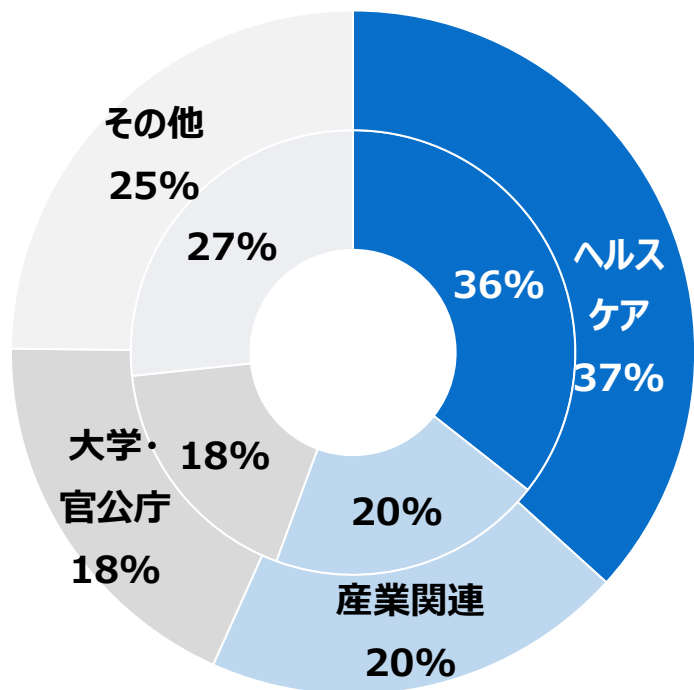
FY2022				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%
▲16%	▲9%	▲3%	+6%	▲5%
+8%	▲8%	+7%	+19%	+6%
▲28%	+9%	▲14%	+31%	▲3%
+20%	+4%	+4%	+6%	+8%
+27%	▲2%	+2%	▲6%	+2%

※インドはその他のアジアの内数

*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

計測機器/市場別売上高比率（通期）

市場別売上構成比



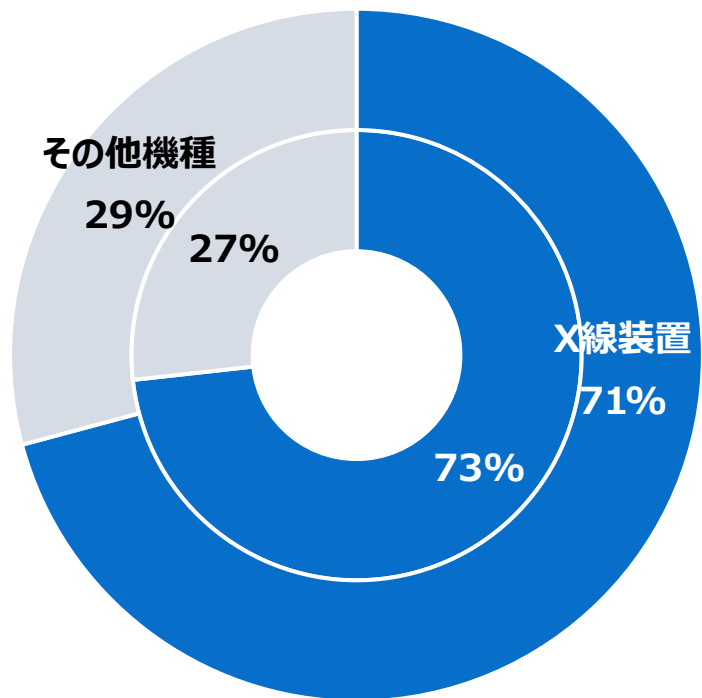
市場と主な業界	構成比		売上高 前期比	概況
	FY 2021	FY 2022		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	36%	37%	+17%	・臨床規制強化や医薬の自国生産強化により、医薬、医療機関、受託分析向けにLCやMSが増加 ・日水製薬連結子会社化が業績に貢献（下期から連結）
産業関連 ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	20%	+14%	・GX向けにGCが増加 ・輸送機向けに試験機が増加 ・電機向けに非破壊装置が増加
大学・官公庁	18%	18%	+19%	・下期から中国の大学向けが政府支援により拡大

※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

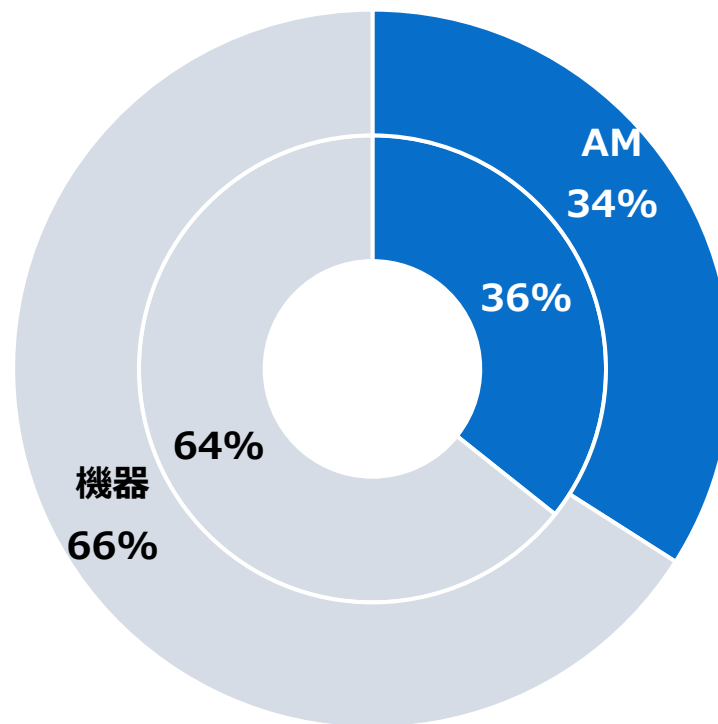
医用機器/各種売上高構成比率（通期）

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

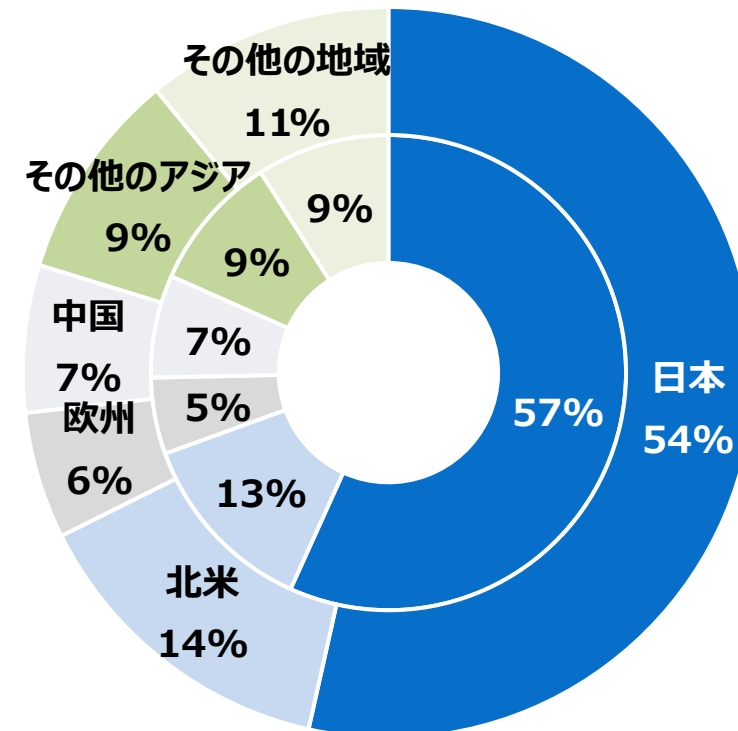
機種別



アフターマーケット (AM) 比率



地域別



※円グラフ外側はFY2022実績、内側はFY2021実績を示す

医用機器/地域別売上高

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

単位 億円		FY2020	FY2021	FY2022	前年同期比		概況
					増減額	増減率	
日本	通期	369	380	406	+26	+7%	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資の回復に伴い、X線TVシステム、血管撮影システムが増加 ・PET装置は、頭部と乳房に特化した世界初のTOF-PET装置「BresTome」が増加
	4Q	129	124	130	+6	+5%	
海外	通期	300	289	353	+63	+22%	<ul style="list-style-type: none"> ・海外売上高比率は46%と前年比3pt増
	4Q	77	76	95	+19	+25%	
北米	通期	83	85	107	+22	+26%	<ul style="list-style-type: none"> ・米国市場向けに開発した近接操作型X線TVシステムが増加 ・呼吸器疾患の診断に有効な一般撮影システムが増加
	4Q	22	25	32	+7	+28%	
欧州	通期	48	35	43	+8	+22%	<ul style="list-style-type: none"> ・東欧向けに一般撮影システムが増加
	4Q	9	8	11	+3	+33%	
中国	通期	52	47	49	+3	+6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響(1Q-3Q) ・下期から政府補正予算により病院の設備投資が増え、回診用X線撮影装置が増加
	4Q	12	11	14	+3	+23%	
その他の アジア	通期	60	62	70	+8	+13%	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアでX線TVシステムと一般撮影システムが増加 ・インドで血管撮影システムが増加
	4Q	18	14	17	+3	+19%	

医用機器/地域別売上高前年同期比

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

- ・日本：放射線治療装置が貢献
- ・海外：部品部材不足緩和に伴い据付が進み、全地域で増収

為替影響を含む	FY2020				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲17%	▲35%	▲7%	+8%	▲14%
北米	+12%	+28%	+21%	▲2%	+14%
欧州	+15%	+33%	+54%	+5%	+29%
中国	+77%	▲23%	+20%	▲21%	+1%
その他のアジア	▲2%	+55%	▲18%	+29%	+15%

FY2021				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%
+3%	▲16%	+11%	+14%	+2%
▲13%	▲39%	▲33%	▲12%	▲27%
▲25%	+3%	▲11%	▲10%	▲11%
+16%	+7%	+26%	▲22%	+4%

FY2022				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%
+4%	+52%	+21%	+28%	+26%
+5%	+61%	+2%	+33%	+22%
+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%
+10%	+16%	+7%	+19%	+13%

為替影響を除く	FY2020*				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	▲17%	▲35%	▲7%	+8%	▲14%
北米	+15%	+30%	+27%	+1%	+17%
欧州	+19%	+29%	+50%	▲3%	+26%
中国	+80%	▲22%	+25%	▲19%	+4%
その他のアジア	▲0%	+57%	▲16%	+32%	+17%

FY2021				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%
+2%	▲19%	+2%	+5%	▲3%
▲21%	▲42%	▲36%	▲14%	▲31%
▲27%	▲1%	▲18%	▲18%	▲16%
+15%	+5%	+18%	▲28%	▲0%

FY2022				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY
+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%
▲12%	+22%	▲3%	+11%	+5%
+0%	+50%	▲8%	+22%	+13%
▲6%	▲30%	▲16%	+7%	▲12%
▲2%	▲4%	▲11%	+7%	▲3%

*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

産業機器/機種別売上高前年同期比

TMP : 半導体製造装置向け減少
油圧 : 産業車両、小型建機が牽引
その他機種 : 中国で工業炉が増加

為替影響を含む	FY2020					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+48%	+37%	+6%	+9%	+22%	+16%	+38%	+50%	+27%	+32%	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%
油圧	▲20%	▲17%	+7%	+6%	▲6%	+37%	+37%	+21%	+5%	+24%	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%
その他	▲2%	▲21%	+16%	▲16%	▲7%	+33%	+32%	▲3%	+18%	+17%	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%

為替影響を除く	FY2020*					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+46%	+36%	+7%	+9%	+21%	+13%	+35%	+44%	+22%	+28%	+11%	+11%	▲1%	▲6%	+3%
油圧	▲19%	▲17%	+7%	+6%	▲6%	+34%	+34%	+18%	+3%	+21%	▲6%	▲4%	▲2%	+7%	▲1%
その他	▲7%	▲20%	+14%	▲16%	▲8%	+32%	+30%	▲6%	+14%	+15%	+7%	+1%	+2%	+17%	+7%

*FY2020は為替及び収益認識基準の影響を除外して比較

アフターマーケット（AM）比率

計測、医用：生産遅延が緩和し、機器販売が好調だったためAM比率減少

TMP：半導体製造装置の稼働率低下に伴いAM比率減少

計測	FY2020					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上高前年同期比	+1%	+4%	+12%	+22%	+10%	+33%	+16%	+4%	+6%	+13%	▲6%	+5%	+21%	+11%	+10%
AM比率	37%	33%	35%	33%	34%	38%	35%	35%	35%	36%	39%	36%	40%	33%	37%

医用	FY2020					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上高前年同期比	+1%	▲8%	+14%	+5%	+3%	+14%	+9%	+2%	+1%	+6%	▲2%	+3%	+0%	+3%	+3%
AM比率	37%	32%	32%	31%	33%	38%	35%	39%	32%	36%	36%	32%	39%	30%	34%

TMP	FY2020					FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
AM売上高前年同期比	+12%	+3%	+11%	+6%	+8%	+18%	+11%	+15%	+5%	+12%	▲1%	▲6%	+4%	▲17%	▲4%
AM比率	17%	21%	19%	18%	19%	17%	17%	15%	15%	16%	15%	14%	16%	13%	15%

※FY2020は為替と収益認識基準の影響を除外して比較
FY2021, FY2022は為替影響を除外

新中期経営計画に関する補足資料

新中期経営計画 業績目標

Excellence in Science
&
Best for Our Customers

新中計期間は売上高CAGR+6.5%、営業利益CAGR+10.5%と前中計期間よりも高い伸びを目指す

* 2019年、2022年を1ドル120円、1ユーロ130円で換算

売上高

営業利益

為替

FY2019

1ドル 108.78円

1ユーロ 120.86円

FY2022

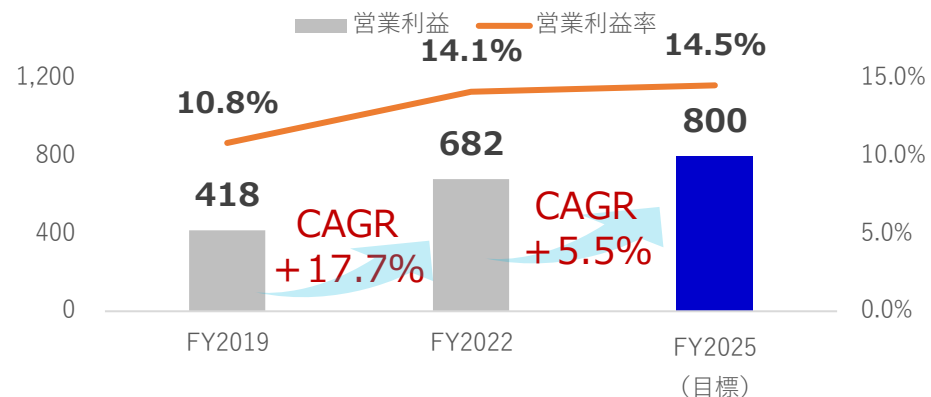
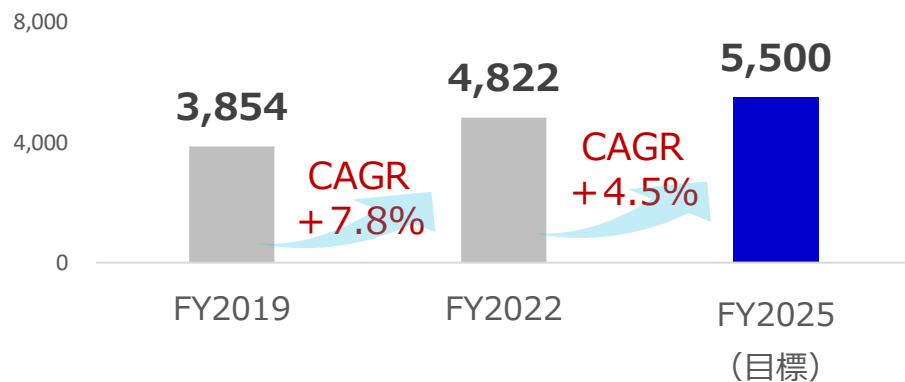
1ドル 135.51円

1ユーロ 141.02円

FY2025

1ドル 120円

1ユーロ 130円



為替

1ドル 120円

1ユーロ130円

換算

